

豊後国速見郡村誌

事務局

明治初期の官製地誌「郡村誌」は、一種の村勢要覧で当時の地方の有様を知る手がかりとして貴重である。

豊後には、東国東・速見・大分・海部・大野・直入・玖珠・日田八郡の「郡村誌」が書かれたが、大分・海部の二郡村誌は残念ながら現存しない。

郡村誌の内容は原則として、疆域 沿革 里程 地勢 税地 無税地 官有地 貢租 戸数 人数 牛馬 舟車 山川 森林 原野 池沼 道路 社 寺 古跡 物産 民業等の項目があり、町村において特記すべき事柄があれば追記されている。郡村誌の編纂はこれらの項目について、各町村より報告された下調書にもとずき、主任が実地について精査を加えて書き上げたものである。

速見郡村誌は、明治十二年に加藤賢成外二名が実地調査を行なったが悪疫流行のため編纂が遅れた。その後明治十七年に河津祐之が担当して起稿し、同十八年六月に脱稿したとされている。（「大分県史 近代篇I」）

ここにあげる各村は現在別府市に属するものである。

（内成・天間地区を除く）内容については、戸数 人数 牛馬 物産 民業 舟車 貢租 税地 無税地・官有地 等民力やそれと関係の深いものは別表にし、比較の便をはかった。原文は片仮名であるが、平仮名になおした。

なお、本文には句読点がないので適当と思われる箇所に一字空白をおいた。また文中の割書は「」にした。

平道村

本村古より本郡薩門荘に属す 古時小浦○小坂両村たり 明治八年三月合して壱村となり本村の称に改む

疆域

東は海岸に瀕し西は南畑村と原野字二ノ戸水ノ口を以

て境し 南は内宿村と字冷川谷を以て界し東北は豊岡
村に字上ノ山を以て接す

幅員 略

沿革

慶長五年庚子徳川氏森〔後毛利に改る〕高政〔伊勢守
○日田郡隈ノ城主〕をして知せしむ 同年更に豊前国
小倉城主細川忠興〔越中守〕之に代り〔其臣有吉立行
・松井康之をして杵築城より支配せしむ〕元和二年
丙辰石川總輔〔主殿頭○日田郡永山城主〕代て之を領
す後寛永十年癸酉小笠原忠知〔彦岐守〕信州松本より
杵築へ徒封之を領す 同十一年甲戌より松平忠昭〔左
近將監〕支配す 正保三年〔丙戌〕徳川氏に歸し夫よ
り日田郡永山布政所に属し代官小川正慶〔藤左衛門〕
小川政重〔九左衛門〕之を支配す 両家父子相襲き寛
文五年乙巳に至り肥後国熊本城主細川綱俊〔越中守〕
亦預りて之を官す〔番代植島半之丞永山城に居る〕
同六年丙午代官山田利信〔清左衛門〕・延宝五年丁巳
三田守良〔次郎右衛門〕等代て支配す 天和二年壬戌
播磨国姫路城主松平直矩〔大和守〕日田郡永山城に徒

り之を領す 貞享三年丙寅岡田氏出羽国山形に転封代官
小野某〔長左衛門〕之に代り支配す 元禄元年戊辰三
田守良再勤す 同五年壬申小長谷某〔勘左衛門〕同十
一年戊寅室某〔七郎左衛門〕・正徳四年甲午南条某〔
金左衛門〕・享保二年丁酉池田某〔善八郎〕・同九年
甲辰増田道脩〔太兵衛○共に代官〕等代て支配す 同
十九年甲寅代官岡田俊惟〔庄太夫〕之に代り寛保三年
癸亥豊前小倉城主小笠原某〔右近將監〕預て之を管す
寛延元年戊辰岡田俊惟再ひ之を支配す 宝暦四年甲戌
其男某〔九郎左衛門〕之を襲ふ 同八年戊寅代官揖斐
某〔十太夫実は岡田九郎左衛門弟〕・安永元年壬辰同
氏没し其男某〔富次郎〕之を襲く 同六年丁酉其男〔
鞠負初杵五郎と云う〕之を襲き天明六年丙午其男某〔
造酒之助〕之を襲く 寛政五年癸丑〔以後高松に役所
を設け代官を置き布政せしむ〕萩原某〔弥五郎〕・同
九年丁巳浅岡某〔彦四郎〕等代て代官たり 同十一年
己未肥前国嶋原城主松平某〔主殿頭〕預り管す〔国東
郡高田役所より支配す〕 後慶應三年丁卯熊本藩〔大
分郡高松役所より支配す〕之に代り 明治元年戊辰八

月日田県之所轄となりしも同四年辛未十一月同県廢せられて大分県これを管轄す

※大分郡高松役所の誤りカ 註編者

里程 略

地勢

西北は山林原野を負ひ南は耕地に連り東は海に臨み運
輸便利新炭乏しからず

地味

其色赤其實美稲粱に宜し 然れ共水利不便にして早に

苦心事多し

川

江上川 江上橋(詳述略一以下同じ)

沼地

藤ヶ谷池(詳述略一以下同じ)

道路

小倉街道 玖珠街道 南畑支道(詳述略一以下同じ)

社

稲荷社 村社 字入江新田にあり保食神を祭る 勸請

年月日不祥 祭日六月十八日

八坂社

村社 字上ノ原に在り 素盞鳴命を祭る 嘉

暦元年出雲大社より本村字森に勸請の処寛文

六年八月二日当地に遷坐す 祭日八月四日

以上二社明治六年村社に列す(以下略)

寺

宝林庵

禅臨濟宗 山城の国紀伊郡東福寺末 字高平

にあり 元小坂村字海門寺に宝林山海門寺と

て寺あり 国主大友氏の外教を信するに当

り是れか為め破却せられしか今を去る式百年

前年月不詳村豪高倉氏之を創建す

学校

公立小学校 壱ヶ所 字陰平にあり

生徒男四拾人・女拾人

内竈村

本村古より本郡鶴見郷に属す 古時内竈門○古市両村

たり 明治八年三月合して壱村となり本村の跡を改む

疆域

東は海に沿ひ西は南畑村と原野字二ノ戸水ノ口等を以て境し 南は耕地を以て亀川村に又耕地并山林を以て野田村に界し北は平道村に字冷川及山野を以て境とす

幅員 略

沿革 平道村に出す

里程 略

地勢

西方原野を負ひ南方耕地を連ね東方海に臨み運輸便利にして薪炭乏しからず

地味

其色赤其實美稻梁桑麻に宜しく水利便なり

川

冷川 無田川 関江橋 新川橋

道路

小倉街道 南畑路 塚原路 野田路 掲示場

温泉

御夢想湯

字御夢想に在り 元質詳ならず能く諸瘡に適す

浴場壱ヶ所近傍農家のみにて逆旅なし 浴客日に往返す其数詳ならず

汐湯

字上濱にあり湯質詳ならず 海濱所々に涌出す 退潮の間のみ浴すへし 能く解凝し疝痛に宜し 近傍逆旅なく浴客の数詳ならず

社

八幡竈社

郷社 字亀川にあり足仲彦尊・氣長足姫尊 菅田尊を祭る 神龜四年勧請 祭日四月廿日 社地中老木の楠樸式株あり

三女社

村社 字本村にあり田心姫命・湍津姫命・市杵嶋姫命を祭る 勧請年月日不詳 祭日六月十九日

天神社

村社 字金丸にあり天穗日命を祭る 勧請年月日不詳 祭日十月廿五日

寺

真徳寺

真宗 山城国愛宕郡本願寺末 字麻生タケにあり 寛文二年十一月僧聞了開基創建す

西念寺

真宗 山城国愛宕郡本願寺末 字岸本にあり 文龜元年九月僧正念開基 其後衰微せしを以

て年号千支不詳僧玄西更に之を中興す

川

無田川 和成井手川

鉾山

明礬地 字明礬にあり反別式反七畝壹歩 一ヶ年出高

壹万斤質佳なり

野田村

本村古より本郡鶴見郷に属し古来分合なし

道路

塚原路 内竈路 亀川路 鉄輪路

疆域

東は龜川村と耕地山林を以て界し西は南畑村に字二ノ

戸の原野を以て接し 南は鉄輪村と耕地原野等を以て

犬牙相交り北は内竈村に耕地山野を以て界とす

幅員 略

沿革 平道村に出す

里程 略

地勢

西方原野を負ひ東南北の三面は全く耕地山林を連ね運

輸聊不便なりと雖も薪炭乏しからず

地味

其色赤其質美稲粱に宜しく水利便なり

温泉

赤湯 泉質鉄気を混す 疥癬諸症に宜し 浴場壹ヶ

所逆旅式ヶ所浴客一歳大凡三百人

蒸湯 壹ヶ所蒸気盛にして湯坪の上に木を横て床を

架し上に土を敷き上及び四方石を構し窟室の

形状をなす 壹戸を穿ち浴客の出入を通し浴

客其中に臥す 能く解凝し腰痛疝病に宜し

此地深水温泉の傍を流れ風景幽邃愛す可し

此他温泉処々あれ共極めて小泉にして唯土人

の浴するものあるのみなれば更に記載せず

(以上赤湯・蒸湯は接近せるを以て浴客往来

して浴するなり)

陵墓

古碑数箇

字御霊社にあり 御霊社と称す碑石銘文なし

傳へ云ふ源為朝妻妾の碑なりと古より村人社殿を建營し以て之を祭る 当時社格村社に列す 昔し村人墓碑の傍より一の古鏡を鑿得 之れを其社に献す今猶存す

社

御霊社

村社 字羽室に在り鎮西八郎為朝の霊を祭る

保元々年十一月奉祀すと古老の口碑に傳う

然れ共詳ならず 祭日十二月十五日

巖島社

村社 字野田原にあり市杵嶋姫命を祭る 勸

請年月日不詳 祭日九月拾七日

天満社

村社 字窪にあり菅原神を祭る 勸請年月日

不詳 祭日十一月二十五日

天満社

村社 字天神原にあり菅原神を祭る 勸請年月日不詳 祭日十一月十日

寺

長泉寺

浄土宗 亀川村信行寺末 字八十浪にあり

御朱雀天皇御宇寛徳二乙酉年親仁王子病て薨

名勝

柴石溪

字柴石にあり 風景幽邃にして傍に温泉あり

溪流木葉を印せる化石を出す 依て此名あり

実に名勝絶幽を以て称せらる

亀川村

本村古より本郡鶴見郷に属す 古時亀川○平田両村たり

明治八年三月合して壱村となり本村の称を用ゆ

疆域

東は海岸に瀕し西は野田村に山林耕地鉄輪村に字城ヶ

塚山野を以て界し 南は北石垣村に耕地を以て接し北は内龜村に耕地を界とす

四ノ湯 原質詳ならず 疥癬類の諸症に宜し 浴場壺

幅員 略

ヶ所逆旅八戸浴客一歳大凡五百人 此他温泉

沿革 (平道村に同じ 略)

の涌出処々あり或は竹筒を以て泉を浴場に引もあり 里屋なる処は路傍の小溝等悉く温泉

里程 略

流通し蒸氣相発せり

地勢

社

西南北の三面は山野耕地を繞らし東方海に臨み運輸便利新炭乏しからず

天満社 村社 字天満社にあり菅原神を祭る 勧請年月日不詳 祭日十二月八日

地味

市姫社 村社 字船頭町にあり市杵嶋姫命を祭る 勧請年月日不詳 祭日十二月二十五日

其色赤其實惡稻粱に適せず 苳芋席・生姜・甘藷等に宜し 水利不便旱に苦むこと多し

寺

川

信行寺 浄土宗 山城国愛宕郡知恩院末 字風呂の阪

平田川 無田川 平田橋 新川橋

道路

にあり 清和天皇十一代後胤美濃国岩龍口領主小島五郎兵衛尉重平十世の孫太夫親重当国

小倉街道 野田路 鉄輪路 北石垣支道

玖珠郡戸端村民家に於て当本尊を穿出す 文

温泉

録三甲午年僧深嘗開基創建す

湯耶泉 原質詳ならず 能く発表し淋病に宜し 諸瘡

観音寺 禅黄檗宗 山城国宇治郡萬福寺末 字寺の内

の膿瀆する者に宜しからず 浴場壺ヶ所浴客

にあり 往古は天台宗にて相宗寺と号し永享

一歳大凡三百人

八年大友持直の創立なり 後享保年間黄檗宗

改宗す

西光寺 真宗 山城国愛宕郡本願寺末 字妙珍筋にあ

り 年月日不詳僧空願開基創建す

清光寺 真宗 山城国愛宕郡東本願寺末 字平田分に

あり 元禄十一年僧道甫開基創建す

学校 公立小学校 壺ヶ所 字妙珍筋にあり

生徒男五拾三人・女三人

幅員 略

沿革 龜川村に出す

里程 略

地勢

西は山林原野に連り東北耕地多し 南方八川を帯ふ運

輸不便薪炭乏し

地味

其色赤黒亦黄色を帯ふるもあり多くは瘦土にして其質極めて悪稲粱に適せず水利不便にして時々旱に苦むこと多し

鉄輪村

川

八川 無田川 渋川 大井手川 和成ヶ井手川 八川

橋 鹿の首橋

鉾山

明礬山 字立賣野にあり 反別式反四畝八歩 安政年

澗域

中坑物発見既に廿年余を經る 一ヶ年出高千

五百斤質佳なり

池沼

法師ヶ畑池

東は龜川村と城ヶ塚山野を以て界とし北は野田村と耕地原野を以て犬牙相接し 南は鶴見村と字八川の中央を以て界とす

道路

塚原路 野田路 北石垣路 鶴見路 亀川路

温泉

蓼原湯 湯質硫氣を混すと雖も清湯にして呑むへし

諸瘡等に宜し 浴場一ヶ所

渋ノ湯 湯質硫氣を混す 里俗に称する地獄に海地獄

の流れを引き湯となし浴す 其味硫礬甚しく

呑むへからす其色灰色にして疝癩等に功驗あり

浴場壹ヶ所

浮湯 湯質詳かならず飯を炊き茶を煮るに宜し 浴

場壹ヶ所〔豊後風土記に云ふ 此湯并郡西河

直山にあり東岸口徑丈余湯色黒泥常に流れず

竊かに井邊に到り発声大言すれば驚鳴湧騰す

ること式丈余其氣熾熱向ひ昵くへからす緑邊

の草木悉皆枯萎せり 依て温湯井と云うとあ

り〕方今は地勢変して其井北に三岸あって三

方平地と成れ共其湯流れ溝石自然と黒色なる

を以て徴すへし 方今は其色玲瓏にして味最

も美なり 嘉永七年十一月五日大地震にて温

泉の色薄紅色に変せり邨彦温泉を掬するに清

きこと平日の如し 蓋し地底に朱砂あるなら

んか其朱色を現するは是れ即ち地震にて朱砂

を揺発せしならん 〔以上本村民佐藤邨彦の

筆記録にあるを資す〕

蒸風呂 熱湯の上に石を畳み室を成す 人痛処を蒸せ

は平癒す疝癩・越絞膝行等に功驗あり 此他

戸毎に地を穿ち形ち竈の如きを作り茶を沸し

菜蔬を蒸に宜しく其温泉の脈絡諸処に通し熱

湯の涌出すること枚挙に遑あらず 当村逆旅

山拾四戸浴客一年間大凡三千人以上諸湯接近

せるを以て往復して入浴するものなり

熱湯

泉面五畝歩村西六町字海地獄に在り 常に沸

騰し湯烟空を蒸して飛散す 其湯面湛碧にし

て臆魂を失せしむ 其下流渋川となり始めて

冷水となり村田の用水に給す 里俗称して海

地獄となす

赤湯地獄 鉄輪村の北にあり野田村と境を接す 其周
圍拾五丈許湯色赤くして泥あり其一方溢出し

変して清水となり東を指し流る 里俗赤湯泉と云ふ

地獄原 字地獄にあり反別三畝歩日夜沸騰し麻芋・蕎

麻・糲等を蒸すに宜し

社

天満社 村社 字宮園にあり菅原神を祭る 勧請年月

日不詳 祭日十二月一日

学校 公立小学校 壺ヶ所 字皆口にあり

生徒男貳拾四人・女拾人

鶴見村

本村古より本郡朝見郷に属す 古時鶴見北中〇鶴見原

中両村たり 明治八年三月合して壺村となり本村の称

に改む

疆域

東は北石垣・南石垣の両村と道路を以て堺し西は塚原

と字硫黄山及び内山を以て界とし南は南立石村と原野山林耕地及び堺川を以て界とし北は鉄輪村と字八川を界とし相對す

幅員 略

沿革

慶長六年辛丑久留島康親〔右衛門太夫〕予州周布より玖珠郡森宮へ転封之を領し 以来世襲後拾二世久留島通靖に至り王政革新明治二年己巳六月藩籍奉還 同四年辛巳七月改めて森原を置れしも同十一月終に廃せられて大分県之を管轄す

里程 略

地勢

東南は耕地原野を控へ西北は連山圍繞して地勢概ね平行ならず運輸頗る不便なれ共薪炭乏しからず

地味

其色赤く多くは墳土にして稲粱に適せざるには非され共其質良からず水利便にして早魃の患少し

山

鶴見山 高三百四拾丈周圍三里貳拾町村西にあり 峰

上より四分し東は南立石村に属し西は塚原村に属し南は東山村に属し北は本村に属す 頂上式峯に分れ一を男嶽と云ひ一を女嶽と云ふ 山脈東は立石村平山に接し西は塚原村さら山に連り南は東山村片山に接し 北は本村倉ヶ塔やざい山等に連り両峯(男嶽・女嶽)接裾の処を迫途と云ふ 靠巍嶙峋崛崎して西由布嶽に対し秀抜相譲らず 古木鬱々岩石深谷あり深式拾丈に及ぶ 其峰上は草木なく山肌を現はす処多し稍下では草茅深四尺に至る 嶺上に火男火賣神の古祠あり 南に去ること拾五間にして洞穴あり深圖られず周囲壺丈山背に赤黒青の三池あり二池常に水なく雨あれば深式尺に至ることあり 赤池より昼夜火煙噴出す遙かに之を望めは煙焰團をなして飛ぶ恰かも白鶴の空に舞ふが如し 依て鶴見と名くとも云ふ 此火煙の威なる古より今に亘りて絶えず 蓋し別府・濱脇両村温泉所々に湧出するは山脈海渚に通徹するの致す処ならん歟

川

登路壺条立石村字畑より紆回して登る高測の難し嶮なり 溪水壺条山の半腹より湧出す其水深五寸浅式寸広拾間狭式間下流字河原奥にて堺川に入る 長壺里三町三拾五間

被川 堺川 八川 天神谷川 明礬渡 門田渡 八川 橋 小倉渡

鉾山

鍋山(硫黄山) 拾九丈九尺四寸周囲壺里拾六町式拾

壺間村西三拾三町壺間式尺にあり 東南木村西北北塚原村に属す 坑物発見は享保十四年に起り既に百四拾四年を経る 一ヶ年出高詳ならず 其質極めて佳なり

明礬山 高五拾八丈周囲壺里式拾式町拾九間村西式拾

三町拾六間五尺寸にあり 坑物発見は享保十四年に起り既に百四拾四年を経る 壺ヶ年出高詳ならず其質極めて佳なり

道路

野田路 北石垣路 塚原路 南立石路 鉄輪路 別府

路

堤塘

南河原堤

温泉

照湯

湯質硫氣を混す 疝癩に宜し 浴場壺ヶ所土人の浴するのみ

小倉湯

湯質硫氣を混す 小瘡等に功驗あり 浴場壺ヶ所土人浴するのみにして他客なし

明礬湯

湯質硫氣を混す 小瘡等に功あり 浴場壺ヶ所逆旅拾戸浴客一ヶ年凡壺千人

今井湯

湯質硫氣を混す 小瘡に宜し 浴場壺ヶ所土人浴するのみにして他客なし

蒸湯

熱湯の上に石を畳み室を成す 人痛処を蒸せは治癒す 疝癩・越越膝行等に功あり

社

火男火売社

郷社 字鶴見にあり火軻具土命・伊弉册命を祭る 勸請年月日不詳 祭日九月二十九日

寺

実相寺

禪曹洞宗 玖珠郡森村安楽寺末 字中河原にあり 元当村実相寺山脚に有りしか慶長年中大友戦争の時兵燹に罹り焼失し爾後不詳 尤も本寺は天和二年七月僧即現開基創建す

学校

公立小学校 壺ヶ所 村南字中河原にあり 生徒男五拾人・女拾貳人

古跡

大石原

慶長五年黒田如水・大友義統両氏の戦処なり 今は荒原となる

北石垣村

本村古より本郡石垣荘に属す 古来分合なし

疆域

東は海に瀕し西は鶴見村と道路を以て界とし 南は南

石垣村と耕地を以て相接し北は亀川村と耕地を以て境

とす

幅員 略

沿革 亀川村に出ず

里程 略

地勢

東は海岸に接し南は黒川を横たへ其他は皆耕地を連め運輸便利なりと雖も山林に遠さかるを以て薪炭乏し

地味

其色赤にて砂地其質悪稲粟に適せず 早に苦むこと稀なりと雖も悪水のみにて灌溉に宜しからず

川

祓ひ川 黒川橋

道路

小倉街道 鉄輪路 鶴見路 掲示場

堤塘

祓ひ川堤

暗礁

栗石礁 海老礁 塩湯礁

社

八幡石垣社 村社 字諏訪の下にあり帯中津日子命・

寺

宝蓮寺

真宗 山城国愛宕郡本願寺末 字ムナソリに

あり創建不詳 僧休田坊念西なる者開基す

曹源寺

臨濟宗 大分郡大分町萬壽寺末 字曹源寺に

あり開基創建不詳

学校

公立小学校 壱ヶ所 字井田にあり

生徒男三拾人・女九人

南石垣村

本村古より本郡石垣荘に属す 古時南石垣村○中石垣

村両村たり 明治八年三月合して壱村となり本村の称

を用ゆ

疆域

東は海に瀕し西は鶴見村と道路を以て界とし 南は別府村と字界川及耕地を以て相對し北は北石垣と耕地を以て接す

幅員 略

沿革 亀川村に同じ

里程 略

地勢

南は堺川を繞らし西北は耕地相連り東一方は海に沿ひ運輸尤も便なりと雖も薪炭乏し

地味

其色赤砂地にて其質惡稻粱に適せず桑茶に宜し 水利は便なれ共惡水多し

川

堺川

道路

小倉街道

暗礁

マル礁

社

八坂社 村社 字牛頭にあり素盞鳴命・大己貴命・稻

田姫命を祭る 祭日三月十五日

天神社 村社 字四郎丸にあり少彦名命・菅原神を祭

る 祭日三月廿五日

寺

寶泉寺 然臨濟宗 大分郡大分町萬壽寺末 字寶泉寺

にあり 至徳二年石雲山獨芳清曇なる僧開基

創建す

円正寺 真宗 山城国愛宕郡本願寺末 字九拾歩にあ

り 天文八年僧教信開基創建す

忠泉寺 真宗 山城国愛宕郡本願寺末 字忠泉寺にあ

り 元禄七年三月僧善入開基創建す

学校

公立小学校 老ヶ所 字忠泉寺にあり

生徒男四拾四人・女九人

村會所

用務所 千疋にあり

別府村

本村古より本郡石垣郷に属す 古時別府○朝見両村たり 明治八年三月合して壹村となり本村の称を用ゆ

疆域

東は硫黄洋に面し西は立石村と耕地又は原野を以て接し南は濱脇村と道路及び耕地宅地物干場を以て界し北は南石垣村と字堺川及耕地を以て相對し西南隅は東山村に原野及耕地を以て界とす

幅員 略

沿革 亀川村に出す

里程 略

地勢

西北は遙かに鶴見嶽を仰ぎ中央より北境に至るの間は耕地相亘り 西南は山林原野を連ね東は硫黄洋を扣へ運輸頗る便利にして薪炭乏しからず

地味

赤白の雜色にして総て砂地なり 加之温泉の氣強く其質尤悪し稻粱及び桑茶に宜しかなす 水利は最も便な

りと雖も素源淺きを以て時々旱魃の憂あり

山

鬼トヲジ山

川

朝見川 堺川 流川 北上川 永石川 天神橋 北町

橋 本町橋 永石橋 幸橋 永石溝 太郎邊溝 原溝

池沼

志高池 池ノツル池

道路

小倉街道 筑(前後)往還 東山路 立石支道 内成

路 鶴見路 揭示場

堤塘

朝見川堤

港

別府港 一等港に属す 東西壹町三拾間・南北壹町貳

拾間 深干潮三丈より五丈に至る 南方に向

ふ 村東にあり暗礁出洲なく風は其方位を問

はず宜しからることなし 一ヶ年出入船数

千五百艘 出貨物青筴貳万束・竹六千束 薪

式拾九万貫 推皮拾万貫 煎鱈千五百貫 生姜三千五百貫 轆轤木拾万貫 硫黄九千六百貫 傘竹四千束 紫胡四百八拾貫・入貨物麻口七百貫 藍玉三百本 食塩式万俵 砂糖千挺 木綿老万反 大豆五百石 酒千樽 綿三千貫 味噌式百樽 酢百挺 醬油三百挺 油四百挺 呉服類五千反 紙老万束 修繕費用は出入貨物及び民に課す

瀧

音原上瀧 音原下瀧 鮎還瀧

温泉

桶湯

湯質鉄気を混す 疝癩・筋疾・腫物等に宜し 浴場三ヶ所逆旅四拾戸 老歳浴客大凡六千人 以下諸湯に往復して入浴するものなり

不老湯

湯質硫黄明礬気を混す 瘰癧毒・皮膚・悪瘡等 総て諸腫物・痒癢等に効あり 浴場式ヶ所

永石湯

湯質硫黄礬気を混す 疝癩・骨痛・悪瘡其他 諸症に宜し 浴場式ヶ所

新湯

湯質鉄気を混す 疝癩・筋疾・腫物に宜し

浴場式ヶ所

掲示場湯 湯質硫黄気を混す 疝癩・悪瘡等総て諸腫物に効あり 浴場式ヶ所

畔無湯

湯質 硫礬鉄気を混す 疝癩・骨痛・腫物・皮癬等総て悪瘡其他諸症に効あり 浴場老ヶ所

潮湯

湯質不詳 疝癩・胃病・脚氣・リヤウマチス病等に効あり 浴場海濱砂場数ヶ所 里俗砂湯と称す

社

天満社

村社 字堺にあり菅原神を祭る 天正五年丁亥一月創建勸請す 祭日九月十五日

稻荷社

村社 字南町下にあり倉稲魂命を祭る 天保十五年甲辰年勸請 祭日三月十日

秋葉社

村社 字南町上にあり軻遇槌命を祭る 明和九年甲申六月勸請す 祭日二月十八日

愛宕社

村社 字佛ノ塔にあり軻遇槌命を祭る 文龜二年壬戌六月勸請す 祭日六月二十六日 社地中老樹あり

八幡朝見社 村社 字朝見にあり大鷲鷲命・菅田別命

・足仲彦命・氣長足姫命を祭る 建久七年勸

請す 祭日十二日八日 社地中松・楠の大樹

あり

八坂社 村社 字檢校にあり 養老元年丁巳一月字音

原に勸請 後建久三年壬子十一月当地へ遷坐

す 祭日十一月七日 社地中老樹あり

寺

海門寺 禅曹洞宗 越前国吉田郡永平寺末 字北町下

にあり年月不詳 僧慧明なるもの開基す 此

寺素と久光村にあり 慶長元年七月大地震の

災に罹り地没して海となる 寺亦從て失亡す

元禄二年僧雷洲なるもの今の地に來り堂宇を

創建し本山永平寺に屬し再興す

萬松寺 禅黄檗宗 山城国宇治郡萬福寺末 字野口に

あり 元禄十一年僧業海開基創建す

西法寺 真宗 山城国愛宕郡本願寺末 字北町上にあ

り 慶長十六年僧宗圓開基創建せしが第五世

の後宗雲の時堂宇烏有に屬し巨細詳かならず

学校 公立小学校 壹ヶ所 字北町にあり

生徒男百四拾七人・女六拾七人

村會所 用務所

郵便所 郵便局

古跡

志高古戰場 延文四年五月廿三日菊地長政・大友親世

此處にて戦ふ 今原野或は池となる

濱脇村

本村古より本郡朝見郷に屬す 古時濱脇○田野口兩村

たり 明治八年三月合して壹村となり本村の称を用ゆ

疆域

東南隅は河水を横へ大分郡神崎村に接し正東は硫黄洋

に面し西は別府村と道路及耕宅地・物干場を以て界と

し 南は大分郡七蔵司・内成二村に山林原野を以て隣

し北は別府村に井堰を以て界とす

幅員 略

沿革 亀川に出ず

里程 略

地勢

西南は山林原野相連なり殊に高崎山高く聳へ中央稍耕地多く 東北は平坦にして硫黄洋に臨み運輸便利薪炭乏しからず

地味

其色赤く温泉の気あり 其質悪しと雖も稲粱に適す桑茶に宜しからず 水利は便なれ共水源浅く時々旱に苦む

山

銭亀峠

川

朝見川 河内川 笹川 鳴川 西ノ橋 大豊橋 一ノ

坪橋 両郡橋

道路

小倉街道 七蔵司路 内成路 庄内路

堤塘

幸神堤 朝見堤 浦田堤

温泉

東湯 湯質鉄気を混す 疝癩・筋疾・腫物諸病に効あり 浴場七ヶ所

西湯 湯質鉄気を混す 疝癩・筋疾・腫物等に宜し 浴場六ヶ所

泥湯 湯質鉄気を混す 圓木を縦横に横へ枕とし平臥して腰脚を埋め以て全身を温む 最も筋骨

を和き痘瘡を解き疝癩等に宜し 浴場式ヶ所 逆旅三拾戸浴客一ヶ年六千人以上諸湯に往来し浴するものなり

社

秋葉社 村社 字東にあり軻遇槌命を祭る 慶長九年

住吉社 村社 字松原にあり三筒男命・氣長足比賣命を祭る 宝曆四年甲戌三月十九日勧請 祭日

甲辰五月勧請 祭日七月二十四日

七月廿七日 社地中老樹あり

寺

長松寺 禅曹洞宗 能登国鳳至郡総持寺末 字田島に

あり往昔田嶋山朱雀院と号す 此寺既に廢絶

して幾屋霜を経るを知らず唯茅堂のみあり無

量寿佛の古像一軀を安置す 于時天正十九年

国東郡横手村永照寺住職繁屋禪師之從風外和

尚來て之を興んと欲して不果 元和二年当郡

川南村興禪院住職茂傳和尚之從泰傳なる者遂

に再興せり因て萬年山長松寺と改む 其際国

東郡横手村泉福寺十三代玉田禪師を請して開

祖とす

修福寺

禪黃檗宗 山城国宇治郡萬福寺末 字谷にあ

り 元禄十三年庚辰四月僧業海開基創建す

崇福寺

然臨濟宗 大分郡大分町萬壽寺末 字町にあ

り 文永三丙寅年不肯正受禪師開基す 其後

寛永年中堂宇破壊し衰微せしを以て僧天笠更

に之を中興す

松音寺

然臨濟宗 山城国葛野郡妙心寺末 字赤松に

あり 石垣原合戦の際諸記録盡く焼失し口牌

傳聞ありと雖共縁由詳かならず

長寛寺

真宗 山城国愛宕郡東本願寺末 字長寛寺に

あり 播磨国の僧高崎円信開基創建す 年月

不詳

南立石村

本村古より本郡朝見郷に属し古來分合なし

疆域

正東は耕地を以て別府村に界し西南は山林原野を連ね

て別府・東山の兩村に接し 正西は鶴見の山嶺を以て

塚原村と相限り北は山林原野及耕地且つ堺川を以て鶴

見村と對す

幅員 略

沿革 亀川村に出ず

里程 略

地勢

西南は山林原野を以て圍繞し殊に鶴見岳高く聳え東北

は耕地相亘り 別府村を隔て、遙に硫黄洋に面し朝見

川中央を流ると雖共運輸不便新炭乏しからず

地味

其色黒く其質惡 尤桑茶に適し稲粱には可なり 水利に便なれとも時として旱苦の恐れあり

山

鶴見嶽 鬼トラジ山

川

朝見川 堺川

道路

筑〔前後〕往還 別府支道 鶴見路

温泉

堀田湯 湯質硫氣を混す 皮膚・□毒・悪疾・痒癢等に効驗あり 浴場老ヶ所逆旅拾戸浴客老歲大

凡式千人

上田湯 湯質硫氣を混す 皮膚・□毒・悪疾・痒癢等に宜し

観海寺湯 湯質金氣を含み無味なり 癩・留飲・痲疾等に効あり 尤も吸飲するに効あり 飯を炊

き茶を煮るに可なり 浴場老ヶ所逆旅八戸老

社

火男火売社 郷社 字鶴見嶽にあり火之加具土命・火

焼連女命を祭る 光仁天皇御宇宝龜二年二月

石祠を立て勸請す 祭日十月九日

天満社 村社 字大石にあり 菅原神を祭る 明曆三

丁酉年十月廿十五日に勸請す 祭日十月二十

五日社中老樹あり

歳神社 村社 字芝原にあり 大歳神を祭る元和元年

十一月五日勸請す祭日十一月五日 社中老樹

寺

海雲寺 禅曹洞宗 国東郡横手村泉福寺末 字横井手

にあり 僧玉田妙高開基す創建の年月不詳

其後衰微せしを以て荻原一道正員大居士宝永

年中に再建すと云

古跡

小屋園古戦場 慶長庚子五年九月大友義統・黒田如水

両氏鶴見原に於て戦ふ 其時義統本村中央字

小屋園に於て陣を張る 今畑となる

観海寺廃跡 天一 「萩原三位正貞の叔母君病苦

の処夢に白髮神来て告げて曰く 豊後国油布

山の麓に温泉あり云々 依て湯治下向の処不

日平癒す 帰京の後此地に壱宇創建し号して

観海寺と称す 去る明治六年廃寺となる 今

其小宇を存し萩原義山に至て農となる

東山村

本村古より本郡鶴見郷に属す 古時東畑○椿○山野口

○捏山の四村たり 明治八年三月合して壱村となり本

村の称に改む

疆域

東は別府村と原野耕地并に宇棚林川中央を以て界とし

西は川上村と由布嶽鞍本山等の山脈原野を以てし并に

原野を以て川南村に境し 南は大分郡北大津留村狸山

下字塚の松を以て界とし北は立石・鶴見の両村と鶴見

の山嶺及原野を以て相限る

幅員 略

沿革 亀川村に出す

里程 略

地勢

東は棚林川を帯ひ黒川・山ノ口川中央を流れ其間耕地

相連り西北は由布・鶴見両嶽を負ひ 南はクラキ嶽等

の山林原野を以て圍繞し高低險路多く運輸不便新炭乏

しからす

地味

其色黒く其質悪し 然れ共稲粟に宜しく最も桑茶に適

す 水利便にして更に旱苦の恐れなし

山

鶴見嶽 鞍木山

由布嶽 高四百七拾八丈周匝三里村西にあり 嶺上よ

り三分し東南は本村に属し西南は川上村に属

し東北西は塚原村に属し山脈東は鶴見嶽に接し西は意岳を擁し南は背戸官林に接し北は唐木山に接す 一山砂礫を體とし巉巖骨角を表出す半腹以上は草木矮小石上多く紅躑躅を生す 頂上貳峯並ひ聳え西を觀音岳〔川上村・塚原村にありては西の岳と云ふ〕と云ひ東を仙人岳〔川上・塚原村兩村にては東の岳と呼ぶ〕と云ふ兩峰相距る壹町貳拾三間式尺其中間の邃谷を姥か兎道と云略ぼ圓形をなし常に水なく谷底怪岩危石矮樹縱橫苔苔其隙を埋む 古昔は即ち噴火山にて此処火坑の遺跡とす 中に平面拾壹敷の石あり 西の岳を東南に急下する三拾丈岐合〔兩峰相合する処〕に通する間を障子と云ふ左右斷巖數千尺危険と云ふへからす 觀音岳を西下する五町許平面の地あり池代と云ふ其西端の小阜を鈴か岳と云ふ 此処に一の洞穴あり 洞口七尺高相若り洞裏西南に斜平下行する六七間壅閉其深さ奥を究むる能はず 再び西に下る拾五町餘矮樹林を

川

黒川 山ノ口川 新連川 榊林川

なす特に老杉式株あり殿の小屋と称す周圍一は壹丈五尺一は壹丈式尺樹陰常に清水湧出す 數拾口の飲料に供するに足れり傳へ云ふ此地 廢塞なりと事蹟不詳 由布の言たる木綿なり 依て木綿山とも云ふ 峰上の白雲木綿を戴くの状に因り此名あり 又豊後富士とも称す其山容の略ぼ似たるを以てなり遠く望めは芙蓉碧空に聳え近きて仰けは雲煙視眸を遊す誠に 天工不測の絶景と云ふに足れり 其眺望に於けるや西南筑肥及び日向の諸山を極め内海を隔て豫山に対し南北に豊洋の渺茫たるに臨み 防長の嶋嶼を數へ三関〔上ノ関・中ノ関・赤間関〕を指名し北豊の諸山村落の如きは目下に棊布す 実に鎮西屈指の名山なり 登路壹条村西字瀬戸より登る 險にして高三拾式町 壹間四尺なり 溪水壹条山の半腹より湧出し 下流字瀬戸に引き黒川の水源となる細流なり

道路

筑〔前後〕往還 大津留路 塚原路 白杵道 別府路

高岡路

社

山神社 村社 字田久保ノ前にあり大山積命を祭る

元龜三年十月勸請 祭日十月二十日

霧島社

村社 字三角山にあり彦火邇々杵命・木花咲

屋比売命・彦火々出見命を祭る 宝龜三年日

州より本村由布嶽傍に遷坐 後又治暦三年東

南方字中川に遷坐の処爾後再神託を以て今の

地に宮殿を建立す 祭日十一月十九日

寺

安楽寺

真宗 山城国愛宕郡東本願寺末 字道上にあ

り 僧堅隆享保五年十一月開基創建す

常行寺

真宗 山城国愛宕郡本願寺末 字中道にあり

正保二年八月僧教立開基創建す

なお、紙数の関係から、各村の幅員・里程・を省略した。また、川・道路・堤塘・暗礁・瀧・池沼等の詳述を

省略したが、必要であれば続刊に記載したいと考えている。

(編 入江秀利)

飛地
鶴見村
田
野田村
田・畑・宅地
山林
2, 3, 2, 02

飛地
鉄輪村
山林 1, 00
鉦山
鍋山(硫黄)
明礬山

日本形船 7 艘
五十石未満漁船
人力車 1 5 輛
飛地
南石垣村
4, 6, 24

日本形船 1 3 艘
五十石未満荷船 3 艘
漁船 3 艘
農船 7 艘
飛地 北石垣村
田 1, 4, 8, 28
人力車 1 7 輛

日本形船 2 8 艘
百石以上 4 艘
五十石以上 4 艘
五十石以下 5 艘
荷船 1 5 艘
漁船 3 0 艘
人力車 3 輛
荷車 3 輛
飛地 南鉄輪村
3, 8, 10

村名	戸数	人口	牛馬	物産	民業	貢	租	税	地	無税地・官有地	町反畝歩	町反畝歩
平道村	本籍179 寄留3 社寺2 總計185	男(平)423 女(平)412 總計835	牛35 馬141 計176 牛馬計36 馬計9	米 質美 785石 七鳥 質惡 81石 煎海 質惡 300束 干 質惡 300斤 鱈 質惡 2,400貫	農業132 漁業20	地租1008,10.7 船稅7,50.0 車稅13,00.0 總計1028,60.7	田 65,4,9,03 畑 18,7,5,15 宅地 6,5,5,15 山林 9,3,7,27 球場 28,0,0,00 數 1,2,27 芝地 2,9,00 總計 128,5,9,27	無税地 荒地・埋葬地 沼池 2,8,7,09 官有地 神社地・山林 8,3,0,08	日本形船 26艘 式百石未満荷船 3艘 漁船 23艘 人力車 3輛			
内竈村	本籍276 社寺3 總計281	男女677 總計1294	牛72 馬239 計311 牛馬計5 馬計29 計32	米 質惡 1,427石 麥 質惡 200石 生 質美 630石 七鳥 質惡 10,000束 干 質美 50石 鱈 質美 1,000貫	農業209 商業4 工業26	地租1887,28.8 車稅2,50.0 船稅3,76.0 漁業稅21,20.0 車稅28,73.0 總計1943,41.8	田 130,3,6,03 畑 31,9,7,12 宅地 10,6,7,03 山林 17,2,4,00 藪 5,7,24 芝地 2,3,9,12 原野 82,8,0,18 物干場 3,3,2,00 溫泉 1,12 未定地 1,7,3,09 總計 281,0,9,03	無税地 荒地・埋葬地 沼池 1,6,2,24 官有地 神社地・山林 1,6,1,21	日本形船 31艘 式百石~五十石 荷船 4艘 漁船 27艘 人力車 5輛			
野田村	本籍81 社寺4 總計86	男女195 總計396	牛19 馬80 計99 牛馬計1 馬計3 計4	米 質惡 460石 麥 質惡 180石 生 質美 30石 七鳥 質惡 1,000束 干 質美 10,000斤	農業80	地租739,54.5	田 40,3,7,00 畑 28,1,3,03 宅地 5,1,3,06 原野 68,3,0,00 山林 14,9,1,18 藪 7,0,0,12 芝地 5,00 溫泉 3,03 切替畑 1,4,1,18 總計 165,3,5,00	無税地 荒地・埋葬地 沼池 2,5,7,09 官有地 神社地・山林 4,5,15	鉾山 明礬地2反7畝1歩			
亀川村	本籍241 社寺2 總計247	男女556 總計1116	牛19 馬79 計98 牛馬計2 馬計24 計26	米 質惡 390石 麥 質惡 143石 生 質美 5,000斤 七鳥 質惡 700石 干 質惡 10,000束 鱈 質美 50石 質美 2,005貫	農業170 商業25 工業40 漁業6	地租667,94.8 煙草稅10,00.0 車稅10,10.0 船稅2,00.0 船稅24,00.0 船稅150,55.0 總計864,99.0	田 41,1,0,12 畑 26,8,5,21 宅地 9,2,2,03 山林 16,6,5,24 芝地 6,1,4,15 藪 4,15 物干場 3,7,15 溫泉 1,09 總計 100,4,1,24	無税地 荒地・埋葬地 沼池 2,1,0,24	日本形船 20艘 式百石~五十石 1艘 五十石未満荷船 5艘 漁船 14艘			
鉄輪村	本籍138 社寺1 總計139	男女247 總計563	牛43 馬88 計131 牛馬計8 馬計11 計19	米 質美 550石 麥 質美 347石 生 質美 25石 七鳥 質美 8,500斤 干 質美 705束 明礬 質美 25,00斤 硫黃 質美 1,3,00斤	農業130 商業3 旅逆34	地租960,01.2 牛馬壳買稅1,00.0 總計961,01.2	田 53,6,4,04 畑 23,8,3,23 宅地 6,5,7,00 山林 61,7,6,14 原野 91,8,0,00 藪 3,7,17 芝地 5,5,27 溫泉 6,26 總計 238,6,2,12	無税地 神社地・沼池 埋葬地・地獄 鎌下地 官有地 明礬地 2,3,08	飛地 鶴野			
鶴見村	本籍276 社寺1 總計278	男(土)658 女(土)654 女(平)614 總計1272	牛79 馬173 計252 牛馬計3 馬計4 計7	米 質美 943石 麥 質美 608石 生 質美 1,233束 生 質美 30石	農業275	地租2364,73.5 酒類稅81,82.0 牛馬壳買稅3,00.0 銃狹稅3,00.0 總計2452,55.5	田 132,2,3,29 畑 110,9,3,24 宅地 17,9,9,19 山林 82,2,5,06 原野 40,0,0,00 藪 4,7,5,22 芝地 8,7,6,24 秣場 236,0,1,03 溫泉 613,1,0,00 總計 632,9,8,26	無税地 埋葬地・地獄 鎌下地 官有地 荒地・神社地 寺院地・山林 明礬地・硫黃 164,5,7,04	飛地 鉄鉾山 明			
北石垣村	本籍188 寄留2 社寺1 總計193	男女411 總計814	牛62 馬111 計173 牛馬計5 馬計10 計15	米 質美 602石 麥 質美 434石 大豆 質美 11石 七鳥 質美 880束 生 質美 220石	農業185 漁業3	地租317,54.5 酒稅80,86.0 牛馬壳買稅3,00.0 船稅1,20.0 漁業稅1,20.0 總計403,80.5	田 100,7,9,12 畑 17,3,5,20 宅地 15,0,4,08 山林 12,9,1,13 芝地 3,4,8,19 物干場 3,1,00 學校敷地 6,16 總計 152,7,6,00	無税地 荒地・埋葬地 沼池 9,4,6,14 官有地 神社地・馬場 寺院地 7,6,20	日本 五人力 飛地 南			
南石垣村	本籍149 寄留1 社寺2 總計155	男女354 總計680	牛68 馬152 計220 牛馬計3 馬計6 計9	米 質美 535石 麥 質美 347石 大豆 質美 9石 七鳥 質美 750束 生 質美 310石	農業146 漁業3	地租1155,56.2 漁業稅4,10.0 牛馬壳買稅1,00.0 船稅2,30.0 總計1162,96.2	田 17,1,9,05 畑 19,6,7,29 宅地 11,8,1,03 芝地 1,7,0,21 山林 9,6,2,13 總計 59,3,8,11	無税地 荒地・埋葬地 沼池 6,0,7,13 官有地 神社地・原野 寺院地 1,0,9,21	日本 五十 漁船 飛地 日 人力車			
別府村	本籍745 寄留3 社寺6 總計757	男女1541 總計3182	牛113 馬225 計338 牛馬計22 馬計13 計35	米 質惡 1,250石 麥 質惡 350石 生 質美 100,000貫 里芋 質美 55,000貫 酒 質美 600石 蠟 質美 5,000斤 炭 質美 100,000貫 針 質美 90,000枚 糠 質美 750,000貫	農業360 商業160 漁業15 貸席10 旅館40 工業70 (女)縫織30 芸妓20	地租2153,91.7 酒類稅423,13.9 船稅21,30.0 牛馬壳買稅4,00.0 銃狹稅1,00.0 娼妓賃席賦金50,00.0 總計2653,35.6	田 138,0,5,06 畑 48,4,4,18 宅地 21,3,3,12 山林 55,7,9,24 原野 613,1,0,00 秣場 3030,0,00 物干場 7,3,5,06 總計1187,0,8,06	無税地 荒地・埋葬地 沼池 11,4,7,15 官有地 神社地・山林 1,3,9,01	日本形 百石 五十 荷 漁 人力車 荷車 飛地			
濱脇村	本籍496 寄留3 社寺1 總計506	男(土)1218 女(平)1221 總計2439	牛84 馬152 計236 牛馬計9 馬計9 計18	米 質美 1,002石 麥 質美 350石 粟 質美 100石 里芋 質美 25,000貫 茶 質美 2,000斤 樺實 質美 10,000貫 干 質美 5,500貫 針 質美 10,000束 木綿 質美 20,000枚 質美 1,800	農業250 商業45 漁業180 工業30 旅館30 貸席4 (女)縫織70 芸妓11	地租1522,89.2 賦金娼妓賃席15,00.0 船稅17,34.0 酒類稅145,82.8 銃狹稅1,00.0 牛馬壳買稅2,00.0 車稅32,50.0 船稅500,00.0 總計2,236,56.0	田 79,5,2,03 畑 34,9,0,15 宅地 10,5,6,13 山林 34,0,9,15 秣場 29,9,5,15 芝地 9,5,24 物干場 1,1,1,12 溫泉場 6,12 總計 191,1,7,18	無税地 埋葬地・沼池 沼池 7,7,06 官有地 神社地・山林 寺院地 揭示場 3,4,9,01	日本形船 83艘 式百石未満 2艘 五十石以上10艘 五十石未満 4艘 荷船 67艘 人力車 30輛 荷車(大八重)5輛			
立石村	本籍140 寄留3 社寺3 總計147	男女302 總計602	牛54 馬137 計191 牛馬計2 馬計10 計12	米 質美 750石 麥 質美 217石 里芋 質美 5,000貫 唐芋 質美 7,000貫 蕎麥 質美 800石 生 質美 700束 竹類 質美 130,000貫 樺實 質美 1,395荷 質美 350斤	農業118 商業4 旅館18	地租743,85.0 銃狹稅3,00.0 牛馬壳買稅3,00.0 總計749,85.0	田 50,6,5,27 畑 28,2,7,00 芝地 9,1,0,15 宅地 4,7,0,13 藪地 1,3,6,06 山林 24,7,1,18 秣場 101,6,0,00 總計 220,4,1,18	無税地 荒地・埋葬地 沼池 1,6,12 官有地 神社地・山林 寺院地・原野 1,010,0,5,28				
東山村	本籍146 寄留2 社寺1 總計152	男女342 總計732	牛54 馬137 計191 牛馬計2 馬計13 計15	米 質美 443石 麥 質美 631石 大豆 質美 51石 里芋 質美 57貫 唐芋 質美 5,000貫 炭 質美 12,500貫 質美 275,700貫	農業140 商業3	地租1,039,58.8 酒類稅12,00.0 牛馬壳買稅14,00.0 銃狹稅17,00.0 總計1,072,58.8	田 72,5,1,06 畑 22,7,8,27 宅地 5,7,1,16 芝地 25,6,2,00 藪地 62,5,2,11 山林 174,3,9,06 秣場 109,8,7,00 原野 215,0,0,00 總計 773,4,1,06	無税地 埋葬地 沼池 9,9,21 官有地 神社地・原野 寺院地 2,500,0,4,25				